

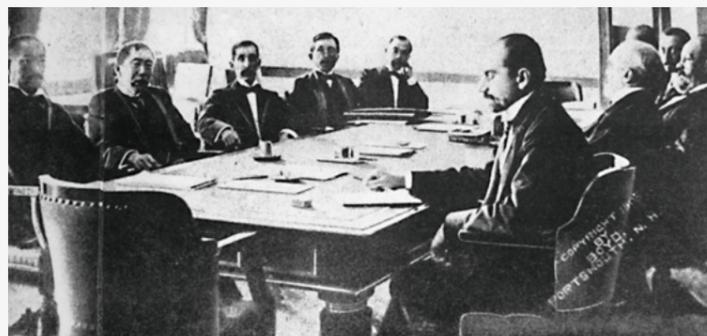
# 異国で知った祖国日本

にちなん 日南市長(宮崎県) 谷口義幸  
Yoshiyuki Taniguchi



## ポーツマス条約も

昭和44年、24才の時、世界を見ようと日本を飛び出しましたが、同時に外から日本を知ることとなりました。  
まず、シベリア鉄道などで写真撮影さえまなななかつたソ連(現ロシア)から、自由なフィンランドへ出た瞬間、私が日本人であるという意識が一変しました。それは、あの日露戦争で日本海軍が旧帝政ロシアのバルチック艦隊を破り、宮崎県日南市出身の小村寿太郎首席全権大使らがポーツマス条約を締結したおかげで多くの国々が独立できたのをその国の人々が知っていたことにありました。



ポーツマス条約締結調和会議の風景 左列左から3人目が小村寿太郎首席全権大使

条約締結当時、日本の国力は破綻寸前で、同時にロシアは革命にあり、日本のおよび日本人のその功

績を学校教育に取り入れてきたというのです。目の丸を振ってヒッチハイクをすればすぐに車が止まったことや、また、立ちションができないので、家庭でトイレを借りて別れの握手をした際、手に折りたたんだお札が入っていたことなどたくさんのお札が思い出されます。また、スウェーデン・ストックホルムの国王も顔を出すと、高級レストランでのアルバイトでは、皿洗いのかわらわ各テーブルの花を生けるのは私の役目でした。

第二次世界大戦の折、日独伊三国同盟というのがありました。イタリアの旅ではそう思わなかったのですが、ドイツの国民には発想や行動が日本人に極めて近く親近感を覚えたものです。特に、夏休み期間に田舎のユースホステルを泊り歩くと、日本人と言えば尊敬され、中には「初めての東洋人」ということで合宿中の高校生らと食後のゲームやダンスパーティに招かれて楽しく過ごしたこともありました。

## イスラム圏を歩いて

世界の主要なイスラム国家は、アジア・太平洋、中東・アフリカなどに広く分布し、その人口は、世界約70億人中約16億人とはば4分の1を占めているとされています。あれはモロッコのウジダという街でし

おり、海外に出て地元品が評価を受けていることに驚き、かつ嬉しく思います。

## 先人の誇りを次代へ

韓国もそうですが、特に中国は古来より遣隋使、遣唐使等交流が多く、阿部仲麻呂や鑑真和尚など多くの日本人・中国人が海を渡り歴史、文化の発展に多大な貢献をしました。

しかし、先の大戦後、両国では反日教育を通して長い間日本を排斥するともに、次々と補償を求め、最近では近隣海域で軍事力行使しています。経済や文化・スポーツ等においては相互交流を積極的に進めるべきですが、領土においては断固として原則を貫くことが肝要です。

小村侯は、生涯「正直と誠」の精神を貫き通しました。本市では国際感覚を身につけ、世界で活躍できる有為な人材を育成するため、5年前から「めざせ小村寿太郎国際塾」を開塾し、今年も58名の小中学生が入塾しました。語学研修はもとより外務省、青山の小村侯墓地、外交資料館見学なども行っています。

同時に、姉妹都市である米国ポーツマス市や豪州アルバーニー市との中高生によるホームステイ事業も続けています。皆さんが、いつの日か世界の平和のために貢献してくれば、ひいては私が若き日の旅でお世話になった方々への恩返しに



58名の小中学生が入塾した「めざせ小村寿太郎国際塾」開塾式



豪州・アルバーニー市との姉妹都市盟約締結調印式後、エヴァンス市長(前列左から3人目)と記念撮影をする筆者(前列左から2人目)

た。砂漠を走り抜けバスを降りた途端、原住民に囲まれ「キーナ、キーナ」と言っ

て石を投げられました。初めは訳が分かりませんが、やがて、ははあ、中国人と間違えているのだと考え、日の丸を取り出し振って「ヤポーン、ヤポーン」と叫ぶと案の定止まりました。

アルジェリアやチュニジアを列車で走ると、あちこちに長いパイプを張り巡らし、サハラ緑化に取り組んでいる風景を目にします。インドでもそうでしたが、日本からの青年海外協力隊に時折会い話を聞きました。最近日南の若者が教育などで協力隊として派遣される折にはアドバイスをしています。

欧州の旅の途中「正月にトルコの首都アンカラの日本大使館に行く」と雑煮を食べさせてくれる」との情報を得ていたので、なるのではと期待しています。

6月の全国市長会議の折、玄葉外相主催のレセプションに出ました。その中で、5月の英国BBCによる世界22カ国世論調査で、世界に良い影響を与えている国は「日本トップ」との紹介がありました。

激動する内外の情勢ですが、このことは、ポーツマス条約の効果はもとより文化・芸術、そして、昨年の東日本大震災の折の困難な中での助け合い(絆)などが世界に報道されたからではないでしょうか。

今を生きる私たちは、多くの先人が残したこの世界が認める祖国日本と、日本人であると言ふことにも誇りをもつとともに、自信をもって未来へ継承すべきであると確信します。



ホームステイ交流事業10周年で、豪州・アルバーニー市からの子ども達を迎える日南市の子どもたち